

平成30年度 学校評価 分析

日野高等学校では、本校の教育目標に基づき、11の領域においてそれぞれ重点評価目を設定し、教員の自己評価（8月、1月）、生徒によるアンケート（9月、1月）、保護者によるアンケート(1月)を行い、その結果を中間評価（教員自己評価）（10月）、総合評価（教員自己評価と生徒、保護者アンケートを合わせた学校関係者評価）として示し、本校教育活動の状況を確認・分析し、以て本校教育、学校改善に活かす努力をしています。

平成30年度評価では総合評価で23評価項目のうち自己評価ではA評価が17項目、B評価が6項目となりました。また、学校関係者評価ではA評価が16項目、B評価が7項目となり、「おおむね目標が達成されている」という結果となっています。特に「授業規律を確立し、学習意欲の喚起と基礎学力の定着に努めている」では教員の自己評価も高く、生徒、保護者の意見も良好であり、授業を大切にしていくという大事な目標達成は進んでいます。

また、「生き方・在り方を考えさせ、早期からの系統的な進路指導を行っている」についても、教員、生徒、保護者とも高い評価があり、総合学科としてキャリア教育に力を入れている本校の特色は発揮されていると思われます。

一方、「規範意識の高揚と基本的な生活習慣を身に付けさせている」や「日々の清掃活動を通して環境学習を行っている」などいくつかのB評価があり、服装・頭髪・登下校マナーなどを丁寧に行うことや、清掃活動や行事を通して美化環境意識を身に付ける必要性も課題となっています。

平成29年度は総合評価、自己評価でA評価が13項目、学校関係者評価でA評価が14項目であり、30年度は「授業改善」や「地域ボランティア参加」などの項目がBからA評価になっており、全体的によい教育活動が進んできていると思われます。

しかし、保護者の意見には「わかりやすい授業実施」や「学校の様子をもっと知らせてほしい」等の意見もあり、今後、学校全体としてさらなる授業改善を進めることや地域、保護者との連携を深めることを努力していきたいと考えています。